

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-8222

(43)公開日 平成8年(1996)1月12日

(51)Int.Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 1 L 21/304	3 4 1 Z			
	G			
	N			
B 0 8 B 3/02	Z	2119-3B		
7/04	Z			

審査請求 未請求 請求項の数3 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平6-164469

(22)出願日 平成6年(1994)6月22日

(71)出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72)発明者 梶田 知穂

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内

(74)代理人 弁理士 高橋 光男

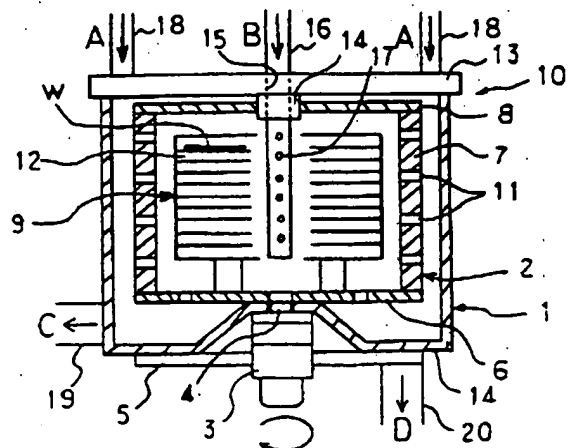
103-(1-3, 10-11, 14-18 24-25)

(54)【発明の名称】 スピンプロセッサ

(57)【要約】

【目的】 液相洗浄および気相洗浄それぞれのメリットを充分生かせる洗浄装置を提供する。

【構成】 スピンプロセッサ10は、洗浄チャンバ1内で回転するロータ2を備える。ロータ2の内部には洗浄液をスプレィする洗浄液供給管16が突き出し、洗浄チャンバ1には洗浄ガス供給管18が接続される。洗浄時、SiウェーハWをセットしたキャリア9がロータ2内部に置かれ、モータ3によって回転されながら洗浄液が噴射され、液相洗浄がおこなわれる。液相洗浄後、こんどは洗浄ガス供給管18よりHFベーパーが導入され、ロータ2の穴11を介してキャリア9内に導かれ、液相洗浄によって付着した酸化膜が気相洗浄される。酸化膜除去後は乾燥がないために従来の洗浄処理よりも工程数が少なくなり、双方のメリットを生かした洗浄処理が可能となる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 洗浄チャンバと、被洗浄物を収納して前記洗浄チャンバ内で回転可能なロータと、洗浄チャンバに接続され、回転する前記ロータの内部に液体洗浄剤を供給する洗浄液供給管と、洗浄チャンバに接続され、ロータ内部に気体洗浄剤を供給する洗浄ガス供給管とを備えたことを特徴とするスピンプロセッサ。

【請求項2】 前記洗浄液供給管は、ロータの中央に突出する先端部分を備え、前記先端部分には洗浄液を霧状にしてロータ内部に噴出させる多数の噴口が形成され、ロータの側板には洗浄チャンバ内に導入された洗浄ガスをロータ内部に導く多数の穴が形成されることを特徴とする請求項1に記載のスピンプロセッサ。

【請求項3】 前記洗浄チャンバには、洗浄後の洗浄液および洗浄ガスをチャンバ外に導く排出管が接続されることを特徴とする請求項2に記載のスピンプロセッサ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、例えばSiウェーハなどの被洗浄物を洗浄する洗浄装置に関し、特に被洗浄物を収納して回転させることにより効果的に洗浄処理が行われるようにしたスピンプロセッサに関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、例えば半導体エレクトロニクスの分野などでは、回路パターンの微細化が進み、LSIが一層高密度、高集積化する傾向にあり、これに伴ってウェーハ上へのマイクロコンタミネーション（微小汚染）が、製品品質や生産性に大きな影響を及ぼすようになってきた。このため、超LSI製造工程などでは各工程を清浄化することは勿論のこと、ウェーハ表面をいかに清浄に保つかが重要な課題となっており、この点でもウェーハの洗浄工程は極めて重要な工程となっている。

【0003】 現在、ウェーハの清浄には、洗浄材としてSC1洗浄液（アンモニア過酸化水素水）やSC2洗浄液（塩酸過酸化水素水）などの液体を使用する液相洗浄（ウェット洗浄）と、HFベーパーやUV/O₃などの気体を使用する気相洗浄（ドライ洗浄）があり、現時点では液相洗浄処理が主流となっている。これは、ウェット洗浄が、バッチ処理が可能でありスループット（単位時間当たりの処理量）が大きいことや、またウェーハの裏面洗浄も可能であること、また更にパーティクル、自然酸化膜など複数の汚染物を比較的簡単に除去可能であること、などの諸々の理由によるものである。しかしながら、このウェーハ洗浄法においては、液体洗浄剤の長期使用に伴って、洗浄剤中に蓄積された汚染物質が前工程からくるウェーハの表面に付着する再汚染という問題を抱えている。従って、理想的には常に新しい洗浄液や純水を使用すればよいが、この場合洗浄液の消費量が増加し、製造コストの上昇を招くことになる。

によりコンタクトホールなどの微細部まで均一に洗浄できることに加え、上述したような再汚染が少なく、またクラスターツールなどの設備に容易に組み込むことができる利点がある。しかしながら、このドライ洗浄では洗浄の主目的であるところのパーティクル除去が困難である。

【0005】 従って、現在ではウェーハ製造工程にウェット洗浄とドライ洗浄の2つの洗浄処理工程を組み入れ、双方のそれぞれのメリットを生かすようにしてウェーハを出来るだけ高いレベルで清浄化しようとした製造工程もある。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、このような洗浄方法においては、例えばウェット洗浄からドライ洗浄に至るまでの搬送過程で、新たに汚染物質がウェーハ表面に付着する可能性が高い。また、この方法では洗浄処理工程間の被洗浄物の搬送自体に手間が要し、生産性が著しく低下するばかりか、簡単にクラスターツール内に2つの洗浄設備を組み込めるといってもない。

【0007】 本発明は、このような問題を生じることなく、液相洗浄および気相洗浄それぞれのメリットを充分生かせる洗浄装置を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するため、本発明によるスピンプロセッサは、洗浄チャンバと、被洗浄物を収納して前記洗浄チャンバ内で回転可能なロータと、洗浄チャンバに接続され、回転する前記ロータの内部に液体洗浄剤を供給する洗浄液供給管と、洗浄チャンバに接続され、ロータ内部に気体洗浄剤を供給する洗浄ガス供給管とを備えたことを特徴としている。

【0009】 また、好ましくは、このスピンプロセッサの洗浄液供給管は、ロータの中央に突出する先端部分を備え、前記先端部分には洗浄液を霧状にしてロータ内部に噴出させる多数の噴口が形成され、更にロータの側板には洗浄チャンバ内に導入された洗浄ガスをロータ内部に導く多数の穴が形成される。

【0010】

【作用】 洗浄チャンバに、液体洗浄剤を供給する洗浄液供給管と気体洗浄剤を供給する洗浄ガス供給管を接続し、ロータ内部に供給可能とすることで、1つの洗浄チャンバ内で液相洗浄と気相洗浄の双方が可能となり、双方のメリットを生かした洗浄を行うことができる。また、ロータを洗浄チャンバ内で回転可能とし、中央に洗浄液供給管の先端部分を突出させたことで、洗浄液がくまなくロータ内部に行き渡り、洗浄ムラを無くすることができる。

【0011】

【実施例】 図面を参照しながら本発明によるスピンプロ

は、本発明の一実施例として、キャリア内に順序よく配置されたSiウェーハを、そのままの状態では液相および気相洗浄するバッチ式のスピンドロセッサの構造を示したものである。本図において、10はスピンドロセッサ本体、Wは被洗浄物としてのSiウェーハをそれぞれ示している。

【0012】スピンドロセッサ10は円筒形の洗浄チャンバ1を備えており、洗浄チャンバ内部には洗浄チャンバ1よりも一回り小さな円筒形のロータ2が設けられる。ロータ2は洗浄チャンバ底部に設置されたモータ3によって洗浄チャンバ内部で回転駆動されるようになっており、このためにモータ3の駆動軸4は洗浄チャンバ底壁5を貫通してロータ底板6の中央に固着されている。

【0013】ロータ2は、円形のロータ底板6と環状の側板7、およびこの側板上に載るロータ天板8から組み立てられる円筒体であって、ロータ天板8は後述するキャリア9の出し入れを可能とするべくロータ本体に対して着脱自在となっている。また、側板7にはロータ内部と外部とを連通する穴11が全域に亘って多数形成される。

【0014】スピンドロセッサ作動時、このロータ内部空間には、多数のSiウェーハWを保持する通常の四角状キャリア9が収納される。キャリア9は、キャリア壁を介した洗浄材の流動を可能にするため、例えばメッシュ板によって組み立てられ、図示するように、キャリア内においては、それぞれのSiウェーハWが他のウェーハWと接することがないように1枚のウェーハWを収容する多数セル12が形成されている。

【0015】以上のように構成されるスピンドロセッサ10において、本実施例によれば、洗浄チャンバ天板13の中央部の内側にはロータ天板8に回転可能に嵌合するブッシュ14が固定される。ブッシュ14および洗浄チャンバ天板13には洗浄チャンバ外部とロータ内部とを連通する貫通孔15が形成され、ここに、洗浄液供給管16が差し込み固定され、洗浄液が矢印Bのように供給される。洗浄供給管16の先端部分はブッシュ14よりキャリア9の内部へと垂下し、管周囲に形成された多数の噴口17より、キャリア内のSiウェーハWに対し洗浄液を吹き付け、いわゆるウェット洗浄するものである。

【0016】更に、本実施例によれば、洗浄チャンバ天板13には、図示しないガス供給源から洗浄チャンバ内部に対して洗浄ガス（例えば、HFベーパー）を矢印Aのように供給する洗浄ガス供給管18が接続される。この洗浄ガス供給管18は、図示するように洗浄チャンバ天板13の周縁近傍部分に接続され、洗浄チャンバ内に送り込まれた洗浄ガスが、前出の穴11を介してロータ内部にスムーズに進入するような配慮がなされている。なお、この洗浄チャンバ1に対しては、上述した各供給

液、洗浄ガス）を洗浄チャンバ外部へと矢印Cのように排出するための排気管19および洗浄液を矢印Dのように排出する排水管20が、洗浄チャンバ下部にそれぞれ接続される。

【0017】次に、SC1（アンモニア過酸化水素水洗浄）とSC2（塩酸過酸化水素水洗浄）からなる一般的なRCA洗浄を例にとり、上述したスピンドロセッサ10の作動およびこれを用いた洗浄方法例を説明する。

【0018】図2(a)はスピンドロセッサ10を使用するウェーハ洗浄手順を示している。洗浄に先立って、まず洗浄チャンバ天板13およびロータ天板8を洗浄チャンバ本体、キャリア本体からそれぞれ取り外し、次にSiウェーハWを入れたキャリア9を、適当な搬送手段を用いてロータ内部に、各ウェーハWが水平になるようにセットする。セット後は再び洗浄チャンバ天板13、ロータ天板8をそれぞれ洗浄チャンバ本体、キャリア本体に取り付ける。次に、洗浄チャンバ中心の洗浄液供給管16からロータ内部にSC1をスプレィ状態で噴射し、同時にモータ3によりロータ2を回転させて、SiウェーハWをスピンドロ洗浄する。その後、洗浄液はSC1→DIW（SC1によるベーパー変化を調整するための純水洗浄）→SC2→DIWというように順次洗浄液供給管16を介してロータ内部に供給され、このようにしてウェーハの液相洗浄が行われる。

【0019】液相洗浄が終了したならば、次に所定時間に亘ってロータ2を回転継続しウェーハWを乾燥させ、次にHFベーパーによる気相洗浄へと移行する。HFベーパーは洗浄ガス供給管18を介して、まず洗浄チャンバ1とロータ2の間の空間に供給され、ロータ側板7に設けられた穴11を通してロータ内部へと導入される。なお、この時ベーパーの拡散性と洗浄均一性を向上させるため、ロータ2は回転される。このHFベーパーを用いた気相洗浄により、液相洗浄によってウェーハ表面に形成された自然酸化膜は除去される。そして気相洗浄後、キャリア9はそのまま洗浄チャンバ1より取り出され、後工程へと搬送されるのである（気相洗浄のため、乾燥処理は不要）。

【0020】このように、本発明のスピンドロセッサ10を使用すると、1つの容器内で液相洗浄と気相洗浄の双方をほぼ同時に行うことができ、液相洗浄でSiウェーハW上のパーティクルを除去し、かつ気相洗浄でコンタミネーションの再付着を抑制することができる。

【0021】また、HFベーパーによる気相洗浄は、当然ながら洗浄後の乾燥処理を必要としないため、図2(b)に示したようなDHF（フッ酸溶液洗浄処理）後の乾燥処理を含む、従来の液相洗浄方法に比較して処理時間が短く、生産性を高めることができる。当然、液相洗浄と気相洗浄を別の設備で行う従来方法との比較においても、洗浄工程間の搬送がないために、この間の汚染

5

【0022】更に、このスピンプロッセッサ10は、キャリア9に多数のウェーハをセットして一括して洗浄する、所謂バッチ式洗浄法を採用しているためスループットが高く、またウェーハ裏面の洗浄も同時に行うことができる。

【0023】なお、このスピンプロッセッサ10の別の活用法としては、洗浄ガス供給管18を介して洗浄チャンバ内部に洗浄液成分のガスを導入し、洗浄液供給管16を介してロータ内部に純水を導入すると、この純水にガスが吸収され、クリーンな洗浄液をロータ内で作製することができる。この洗浄液を直ちにウェーハ洗浄に使用した場合、薬品の純度に依存しない洗浄液による液相洗浄が可能となる。

【0024】また、実施例ではバッチ式のスピンプロッセッサとしたが、当然、枚葉式のスピンプロッセッサにも上述した構造は適用可能である。

【0025】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、1つの洗浄チャンバ内で液相洗浄と気相洗浄が行うこと

6

が可能となり、それぞれのメリットを生かした洗浄処理が可能となる。

【0026】また、従来と比較して洗浄工程も短縮でき、洗浄工程間の搬送もなく汚染物質の搬送時付着を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

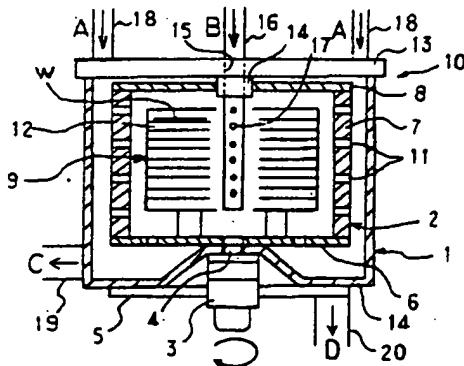
【図1】 本発明の一実施例によるスピンプロッセッサの断面図である。

【図2】 洗浄工程の流れを示し、(a)は本発明のスピンプロッセッサを使用した洗浄工程の流れ、(b)は従来の洗浄工程流れを示した図である。

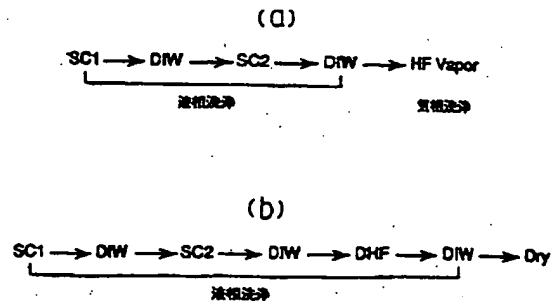
【符号の説明】

- 1…洗浄チャンバ
- 2…ロータ
- 9…キャリア
- 10…スピンプロッセッサ
- 16…洗浄液供給管
- 18…洗浄ガス供給管
- W…Siウェーハ

【図1】



【図2】



NON-CERTIFIED, UNFORMATTED TRANSLATION FROM INTERLINGUA.COM

Reference N .
Job N . TOT-LYON-2268B

19. Japan Patent Office (JP) 12. Japan Laid-open Patent Gazette (A) 11. Patent Application Laid-open No.

Heisei 8-8222 (1996)

43. Patent Laid-open Date: January 12, 1996 (Heisei 8)

51. Int. Cl. ⁵	ID Code	Internal Reference No.	FI	Place for Technology Labeling
H 01 L 21/304	341 Z	9268-4F		
	G			
	N			
	Z	2119-3B		
	Z			
		Request for Examination:	Number of Claims: 3	FD (Total 4 pages)
		Not Requested		

21. Application No. Heisei 6-164469
 22. Date of Filing June 22, 1994 (Heisei 6)
 71. Applicant 000002185
 Sony Corporation
 6-7-35, Kitashinagawa, Shinagawa-ku, Tokyo
 72. Inventor Chiho Kajita
 6-7-35, Kitashinagawa, Shinagawa-ku, Tokyo
 74. Agent Mitsuo Takahashi, Patent Attorney

(54) Title of the invention
Spin Processor

(57) Abstract

Objective:

To offer a cleaning apparatus that adequately manifests the respective merits of liquid phase cleaning and gas phase cleaning.

Constitution:

A spin processor 10 is equipped with a rotating rotor 2 in a cleaning chamber 1. A cleaning liquid supply pipe 16 that sprays cleaning liquid protrudes into the rotor 2, and a cleaning gas supply pipe 18 is connected to the cleaning chamber 1. During cleaning, a carrier 9 on which Si wafers W have been placed is placed in the rotor 2, and as it is rotated by the motor 3, cleaning liquid is sprayed so that liquid phase cleaning is carried out. After liquid phase cleaning, HF vapor is then introduced from the cleaning gas supply pipe 18 and is conducted into the carrier 9 via the holes 11 in the rotor 2 so that oxide film produced due to liquid phase cleaning is cleaned by the gas phase. No drying is performed after removal of the oxide film, so that the number of processes is reduced relative to conventional cleaning treatments. A cleaning treatment can thus be carried out that provides the merits of both.

Claims

Claim 1. A spin processor, characterized by being equipped with a cleaning chamber, a rotor that contains the object to be cleaned and can rotate within the aforementioned cleaning chamber, a cleaning liquid supply pipe that is connected to the cleaning chamber and supplies liquid cleaning agent to the



InterLingua.com, Inc

(310)792-3636/Fax (310)792-3642

E-mail: interlingua@interlinguacomm.com

NON-CERTIFIED, UNFORMATTED TRANSLATION FROM INTERLINGUA.COM

interior of the aforementioned rotor that rotates, and a cleaning gas supply pipe that is connected to the cleaning chamber and supplies gas cleaning agent to the interior of the rotor.

Claim 2. The spin processor according to Claim 1, characterized in that the aforementioned cleaning liquid supply pipe is equipped with a tip section that protrudes into the center of the rotor, numerous spray openings that discharge cleaning liquid into the rotor interior in the form of a mist are formed at the aforementioned tip section, and numerous holes are formed in the side walls of the rotor, which conduct cleaning gas that has been introduced into the cleaning chamber into the rotor interior.

Claim 3. The spin processor according to Claim 2, characterized in that exhaust pipes that conduct cleaning liquid and cleaning gas from the chamber after cleaning are connected to the aforementioned cleaning chamber.

Detailed description of the invention

[0001]

Field of industrial utilization

The present invention concerns a cleaning device for cleaning Si wafers or other objects to be cleaned, and in particular, concerns a spin processor that is designed so that the cleaning treatment can be effectively performed by housing and rotating the object to be cleaned.

[0002]

Prior art

In recent years, the detail of circuit patterns has been increasing in the field of semiconductor electronics, and the degree of large-scale integration is trending towards higher densities and higher integration levels. In conjunction therewith, micro-contamination present on wafers has come to have a significant effect on product quality and productivity. For this reason, the cleanliness of various processes such as ultra-large scale integrated circuit manufacture processes must, of course, be increased, and the degree to which the surface of the wafer is maintained in a clean state has become a critical problem. Consequently, the wafer cleaning processes are becoming extremely important processes.

[0003]

At present, cleaning of wafers is carried out by liquid-phase cleaning methods (wet cleaning) wherein SC1 cleaning liquid (ammonia and hydrogen peroxide aqueous solution) or SC2 cleaning liquid (hydrochloric acid and hydrogen peroxide aqueous solution) are used as cleaning agents, and gas-phase cleaning methods (dry cleaning) wherein a gas such as HF vapor or UV/O₃ is used. At present, liquid-phase cleaning treatments are primarily used for various reasons, for example, because throughput (treatment volume per unit time) is high due to the potential for batch treatments, cleaning of the back side of the wafer is also possible, and numerous types of contaminants such as particles and natural oxide films can be eliminated with comparative ease. However, this type of wafer cleaning method brings with it the problem that contaminants accumulate in the cleaning agent when the liquid cleaning agent is used over a long period of time, and re-contaminate wafers by adhering to the surface of wafers arriving from previous processes. Although it is desirable, in theory, to always use fresh cleaning liquid or purified water, cleaning liquid consumption increases in such cases, which causes an increase in manufacture cost.

[0004]

By means of [illegible due to missing line at bottom], cleaning can be carried out uniformly at the micro-region level, e.g., contact holes, and moreover, the aforementioned type of re-contamination will not occur, leading to the advantage that the device can be readily used in combination with equipment such as cluster tools. With this type of dry cleaning method, however, there are problems with particle removal, which is a critical cleaning objective.

[0005]

Consequently, there are manufacture processes wherein two cleaning treatment processes, wet cleaning and dry cleaning, are combined in the wafer manufacture process. By this means, the attempt is made to increase cleanliness to as high a level as possible by combining the merits of each method.



InterLingua.com, Inc

(310)792-3636/Fax(310)792-3642

E-mail: interlingua@interlingua.com

NON-CERTIFIED, UNFORMATTED TRANSLATION FROM INTERLINGUA.COM

[0006]

Problems to be solved by the invention

However, with this type of cleaning method, there is a strong possibility that new contaminating material will adhere to the surface of the wafer in the process whereby the wafer is transported from wet cleaning to dry cleaning. In addition, transport of the object to be cleaned in itself requires work during the cleaning treatment process, and productivity is greatly increased. Moreover, two cleaning apparatuses cannot readily be incorporated in cluster tools.

[0007]

The present invention has the objective of offering a cleaning device that makes adequate use of the merits of both liquid phase cleaning and gas phase cleaning, without causing problems of this type.

[0008]

Means for solving the problems

In order to attain the aforementioned objectives, the spin processor of the present invention is characterized by being equipped with a cleaning chamber, a rotor that contains the object to be cleaned and can rotate within the aforementioned cleaning chamber, a cleaning liquid supply pipe that is connected to the cleaning chamber and supplies liquid cleaning agent to the interior of the aforementioned rotor that rotates, and a cleaning gas supply pipe that is connected to the cleaning chamber and supplies gas cleaning agent to the interior of the rotor.

[0009]

In addition, the cleaning liquid supply pipe of the spin processor is equipped with a tip section that protrudes into the center of the rotor, where numerous spray holes that discharge cleaning liquid into the rotor interior in the form of a mist are formed on the aforementioned tip region. Moreover, numerous holes that conduct cleaning gas that has been introduced into the cleaning chamber into the rotor interior are formed in the side walls of the rotor.

[0010]

Action

A cleaning liquid supply pipe that supplies liquid cleaning agent and a cleaning gas supply pipe that supplies gas cleaning agent are connected to the cleaning chamber, and because these agents can be supplied to the rotor interior, both liquid phase cleaning and gas phase cleaning are possible within a single cleaning chamber, so that cleaning can be carried out while manifesting the merits of both methods. In addition, it is possible to rotate the rotor in the cleaning chamber, so that the tip section of the cleaning liquid supply pipe that protrudes into the center thereof causes the cleaning liquid to completely cover the interior of the rotor, thereby ensuring uniform cleaning.

[0011]

Working example

The spin processor of the present invention was [illegible due to missing line at bottom], and as an application example of the present invention a device is shown exhibiting a batch-format spin processor structure wherein Si wafers that are in an orderly arrangement in a carrier are subjected to liquid phase and gas phase cleaning in this condition. In the figure, 10 denotes the spin processor body, and W denotes each of the Si wafers that are the objects to be cleaned.

[0012]

The spin processor 10 is equipped with a cylindrical cleaning chamber 1, with a cylindrical rotor 2 that is slightly smaller than the cleaning chamber 1 being installed on the interior of the cleaning chamber. The rotor 2 is formed so that it can be driven to rotate in the cleaning chamber by a motor 3 that is installed in the floor of the cleaning chamber, with the drive axle 4 of the motor 3 passing through the bottom wall 5 of the cleaning chamber, and attaching at the center of the rotor base plate 6.

[0013]

The rotor 2 is a cylinder that is assembled from a circular rotor base plate 6, an annular side plate 7 and a rotor ceiling plate 8 that is carried on the side plate. The rotor ceiling plate 8 can be attached or removed freely on the rotor body so that it is possible to introduce or remove the carrier 9 described below. In



InterLingua.com, Inc

(310)792-3636/Fax(310)792-3642

E-mail: interlingua@interlinguacom.com

NON-CERTIFIED, UNFORMATTED TRANSLATION FROM INTERLINGUA.COM

addition, numerous passage holes 11 are formed over the entire region of the side plate 7 passing between the interior and exterior of the rotor.

[0014]

During operation of the spin processor, a common square carrier 9 that carries numerous Si wafers W is housed in the interior space of the rotor. The carrier 9 is assembled from a mesh plate, for example, so that it allows flow of cleaning liquid via the carrier walls, and as shown in the figure, multiple cells 12 are formed that each house a single sheet of wafer W, so that each of the Si wafers W do not contact other wafers W in the carrier.

[0015]

In the spin processor 10 constituted in the manner described above according to this working example, a bushing 14 that fits into the rotor ceiling plate 8 so that it can rotate is fixed to the inside of the center of the cleaning chamber ceiling plate 13. A passage hole 15 is also formed in the bushing 14 and in the cleaning chamber ceiling plate 13, thus passing between the cleaning chamber exterior and rotor interior. The pipe 16 for supplying cleaning liquid is inserted and fixed therein, and cleaning liquid is supplied as indicated by the arrow B. The tip section of the cleaning supply pipe 16 descends from the bushing 14 inside the carrier 9, and cleaning liquid is sprayed onto the Si wafers W in the carrier from the numerous spray openings 17 that are formed in the pipe periphery. This device is thus referred to as a wet cleaning device.

[0016]

In addition, in this working example, a cleaning gas supply pipe 18 that supplies cleaning gas (for example HF vapor) as indicated by the arrow A to the cleaning chamber interior from a gas supply source not shown in the figure is connected to the cleaning chamber roof plate 13. This cleaning gas supply pipe 18, as shown in the figure, is intentionally connected at the periphery of the cleaning chamber ceiling plate 13 in such a manner that the cleaning gas that is conducted into the cleaning chamber proceeds smoothly to the interior of the rotor via the aforementioned holes 11. With respect to this cleaning chamber 1, the aforementioned various supply [illegible due to missing line at bottom] and an exhaust pipe 19 for exhausting [illegible due to missing line at bottom] liquid, cleaning gas) outside the cleaning chamber as indicated by the arrow C and a waste water pipe 20 for removing cleaning liquid as shown by the arrow D are each connected in the lower part of the cleaning chamber.

[0017]

Next, the action of the aforementioned spin processor 10 and an example of a cleaning method using this device will be discussed using, as an example, common RCA cleaning comprising SC1 cleaning (ammonia and hydrogen peroxide aqueous solution) and SC2 cleaning (hydrochloric acid and hydrogen peroxide aqueous solution).

[0018]

Figure 2a shows the wafer cleaning sequence carried out using the spin processor 10. Prior to cleaning, the cleaning chamber ceiling plate 13 and the rotor ceiling plate 8 first are removed from the cleaning chamber and the carrier body respectively, and then the carrier 9 with the Si wafers W inserted therein is placed in the rotor using an appropriate transport means so that each of the wafers is horizontal. After placing, the cleaning chamber ceiling plate 13 and the rotor ceiling plate 8 are installed on the cleaning chamber body and carrier body respectively. Next, SC1 is discharged in the form of a spray inside the rotor from the cleaning liquid supply pipe 16 at the center of the cleaning chamber, and simultaneously, the rotor 2 is made to rotate by means of the motor 3, thereby spin-cleaning the Si wafers W. Subsequently, the cleaning liquid is supplied to the interior of the rotor via the cleaning liquid supply pipe 16 in the sequence: SC1 //arrow// DIW (purified water cleaning used in order to control change in hydrogen ion concentration due to SC1) //arrow// SC2 //arrow// DIW. Liquid phase cleaning of the wafers is thus carried out in this manner.

[0019]

Upon completion of liquid phase cleaning, rotation of the rotor 2 is halted after a determinate period of time, and the wafers W are dried. Subsequently, the wafers are transitioned to gas phase cleaning using

NON-CERTIFIED, UNFORMATTED TRANSLATION FROM INTERLINGUA.COM

HF vapor. The HF vapor is supplied between the cleaning chamber 1 and rotor 2 via a cleaning gas supply pipe 18, and is conducted to the rotor interior via holes 11 that have been provided in the rotor side wall 7. In order to improve the cleaning uniformity and diffusion of vapor at this time, the rotor 2 is rotated. By means of gas phase cleaning using HF vapor, the natural oxide films that have formed on the wafer due to liquid phase cleaning are removed. After gas phase cleaning, the carrier 9 is removed from the cleaning chamber 1 unchanged, and is transported to subsequent processes (a drying process is unnecessary due to gas phase cleaning).

[0020]

When the spin processor 10 of the present invention is used in this manner, both liquid phase cleaning and gas phase cleaning can be carried out almost simultaneously in a single vessel, so that the particles present on the Si wafers W can be removed by gas phase cleaning and recontamination can be controlled by gas phase cleaning.

[0021]

Moreover, gas phase cleaning carried out using HF vapor does not require a drying process after cleaning, as is well known, and thus includes the drying treatment after DHF (fluoric acid aqueous solution cleaning treatment) as shown in Figure 2b. As a result, the treatment time is short relative to conventional liquid phase cleaning methods, and productivity can be improved. Of course, in comparison to conventional methods in which liquid phase cleaning and gas phase cleaning are carried out using separate equipment, because transport is not performed between cleaning operations, contamination during this period [illegible due to missing line].

[0022]

In addition, with this spin processor 10, numerous wafers placed in the carrier 9 are cleaned at the same time, giving high throughput because a "batch-format" cleaning method can be employed, and moreover, cleaning of the back surface of the wafer can be carried out simultaneously.

[0023]

Another method for using the spin processor 10 involves introducing gas of the cleaning liquid component into the cleaning chamber interior through the cleaning gas supply pipe 18, while introducing purified water into the rotor via the cleaning liquid supply pipe 16, thus allowing absorption of the gas into the purified water so that clean cleaning liquid can be produced in the rotor. This cleaning liquid is immediately used for cleaning the wafers, and thus liquid phase cleaning can be carried out using cleaning liquid that is unaffected by the purity of the reagents.

(0024)

Moreover, although a batch-format spin processor was used in this working example, the aforementioned structure can also be used in a sheet-format spin processor.

[0025]

Effect of the invention

As described above, liquid phase cleaning and gas phase cleaning can be carried out in the present invention in a single cleaning chamber, and thus the cleaning process can be carried out while manifesting the merits of each.

[0026]

The cleaning process can be shortened relative to conventional methods, and adhesion of contaminants during transport can be prevented because no transport occurs between cleaning processes.

Brief description of the figures

Figure 1. Cross-sectional diagram of the spin processor of a working example of the present invention.

Figure 2. Diagram showing (a) the cleaning process sequence using the spin processor of the present invention, and (b) the cleaning process sequence of a conventional method.

Key:

1 Cleaning chamber

NON-CERTIFIED, UNFORMATTED TRANSLATION FROM INTERLINGUA.COM

- 2 Rotor
- 3 Carrier
- 10 Spin processor
- 16 Cleaning liquid supply pipe
- 18 Cleaning gas supply pipe
- W Si wafer

Figure 1
//insert//

Figure 2
//insert//

(a)

- 1 Liquid phase cleaning
- 2 Gas phase cleaning

(b)

- 1 Liquid phase cleaning